

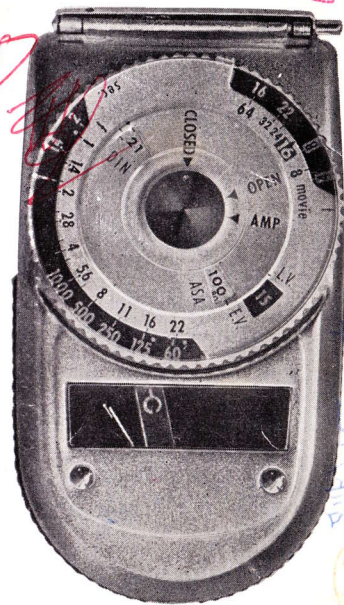
SEKONIC



発売元 株式会社 早苗商会 東京都中央区日本橋本石町3-4 電話(241) 6828-6829  
6418-6421  
セコニック福岡出張所 福岡市高畑新町26 電話福岡(2) 5495  
関西発売元 株式会社 南光商会 大阪市南区北炭屋町27(大京ビル内) 電話(27)4905  
製造元 成光電機工業株式会社 東京都豊島区堀之内1-9-9 電話(97)1116-9

# SEKONIC AUTO LEADER

SEKONIC ELECTRIC CO., LTD.

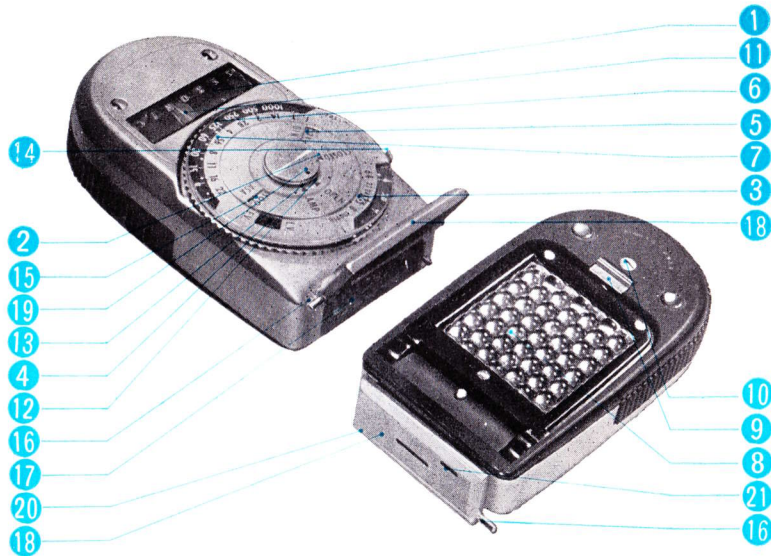


L-38

七回  
商社株式會社  
課



## 各部名称



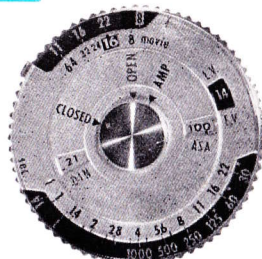
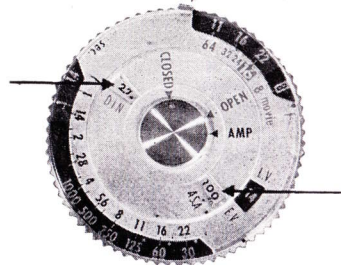
- 1 指 針
- 2 赤三角印 (CLOSED)
- 3 シネ専用目盛
- 4 ライトバリュースケール目盛
- 5 DIE 目盛
- 6 シャッタースピード目盛
- 7 絞り目盛
- 8 オートアンプ
- 9 アンプおさえバネ
- 10 ゼロ調整ネジ
- 11 ガイドマーク
- 12 青三角印 (OPEN)
- 13 黒三角印 (AMP)
- 14 ツマミ
- 15 ASA 目盛
- 16 ボタン
- 17 受光部
- 18 マルチフィルター
- 19 中心赤マーク
- 20 赤印指標
- 21 青印指標

## セコニックオートリーダーについて

- オートリーダー38型はガイドマークによる追掛け方式を採用しているために測定が非常に簡単な操作で出来ます。
- セコニックオートリーダー38型は反射光線式露出メーターです。反射光線式というのは被写体から反射して来る光線を測って露出を決める方式です。(正確に言えば被写体の輝度を測定するメーターです。)
- オートリーダー38型は3段切換方式でマルチフィルターの開閉により低輝度と高輝度が測定出来、その上非常に暗い場合にも測定出来るようにオートアンプがビルトインされています。
- オートアンプは本体裏のアンプおさえバネにより簡単に引き出せるようになっておりますから、携帯には非常に便利です。
- オートリーダー38型は映画撮影に非常に便利なシネ専用目盛や、ライトバリュースケール付カメラのためにライトバリュースケール目盛がついております。
- その他シャッター目盛りはフォーカルプレーン目盛(倍数系列シャッター目盛)とレンズシャッター目盛がついております。
- フィルム感光度目盛はASA及DINを採用しております。ASAもDINも同じ感度記号でありASAは主として米国、DINはヨーロッパ等で用いられております。

注意 ガイドマークは0位置には戻りませんから操作には注意して下さい。

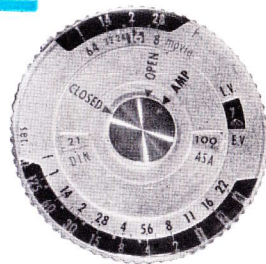
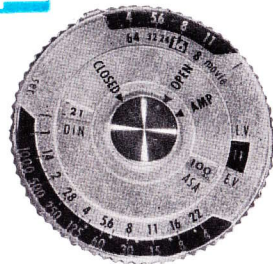




測定する前に貴方がカメラに入れたフィルムの感光度数値をお調べ下さい。次に透明ダイヤルをおさえながらツマミ（名称No.14）を廻して、ASA窓（DINをご使用の方はDIN窓）にその数値が真中に出る様に正しく合わせて下さい。フィルム感光度はフィルムメーカー（製造元）によって種々異なりますが、普通S級ならばASA50、SS級ならばASA100です。なお同じフィルムでも太陽光の時と人工光の時では感光度の数値は違って参りますから、フィルムに同封されている説明書をよくご覧になってから合わせて下さい。

受光部を被写体に正しく向けますと（向け方は個々の場合について後の頁で説明いたします）その被写体の明るさに応じて指針が窓の中で振れます。

**A** 被写体が非常に明るい場合はマルチフィルターを閉じて測ります。そのときはマルチフィルターの上の赤色標示が出ますから透明ダイヤルを廻してダイヤル中心の赤マークに赤三角（CLOSED）を合わせます。次に一番外側のギザギザのついたダイヤルを廻しますと窓の中のガイド



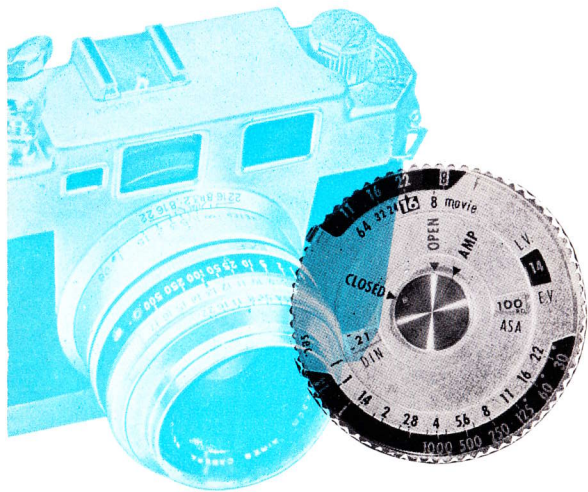
マークが動きますので振れている指針の上に丁度重なる様にいたします。これだけの操作で希望する絞りとシャッター（シネの場合は毎秒の駒数）の組合せが自動的に得られますから、これらの組合せから被写体に応じた絞りとシャッターの組合せをカメラにセットすればよいわけです。

**B** マルチフィルターを閉じたままで指針の振れない様な暗い被写体の場合、ボタンを押してマルチフィルターを開くと青色標示が見えますから、透明ダイヤルを廻してダイヤル中心の赤マーク

に青三角（OPEN）を合わせます。後は閉じた場合と同様に外側のギザギザのついたダイヤルを廻して、ガイドマークを指針に合わせればよいのです。

**C** マルチフィルターを開いても指針の振れない様な非常に暗い場合には、マルチフィルターを開けたままにして裏側のアンプおさえバネを引き、アンプを取り出してダイヤル中心の赤マークに黒三角（AMP）を合わせてから前と同様な測定方法でダイヤルを操作して下さい。

## ライトバリュー (LV=EV)



ライトバリューシステムのシャッター付カメラをお持ちの方は、このライトバリュー目盛で露出を決定して下さい。測定方法は普通と同じで、ただ求められたライトバリュー数値をカメラにセットするだけです。もし感光度 ASA100のフィルムを使用して測定し、ライトバリュー数値が14を示した時、カメラのライトバリュー目盛の数値も14にセットして下さい。こうすれば被写体の状況によってカメラの絞りをF 8にすれば、シャッタースピードは自動的に $\frac{1}{500}$ 秒となり、またF 11に絞りこめばシャッタースピードは自動的に $\frac{1}{200}$ 秒にセットされます。反対にシャッタースピードの方を $\frac{1}{60}$ にセットすれば、絞りは連動してF 16になります。また $\frac{1}{600}$ 秒に置きかえれば絞りは自動的にF56に開いてきます。

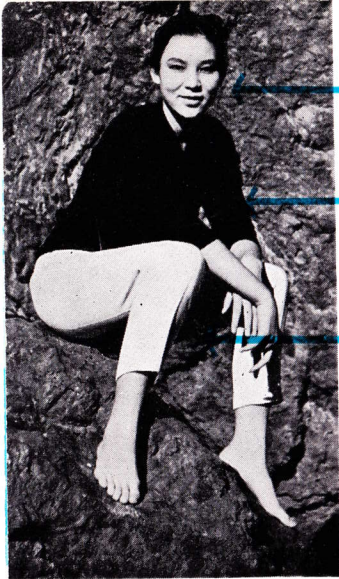
EVはエクスポージャー・バリューの訳で、ライトバリューと同じ意味があります。アメリカではライトバリューのことをエクスポージャーバリューと呼んでおります。

## カラー撮影について

カラー撮影に露出メーターはなくてはならないものです。モノクローム（白黒）フィルムはある程度のラチチュード（寛容度）もありますが、カラーフィルムはこれが極めて少なく、従って少しの露出の過不足があっても美しい色は再現出来ません。カラー撮影の場合の測定法はこれといって特別にありませんが、ただフィルムの感光度を指定どおり正確にセットすることで、あとはモノクローム撮影と全く同じですが、カラー撮影の場合は普通明るい部分が露出の基準となります。また明暗コントラストを光源の調節やレフの使用により、1：4以内にする事が出来れば美しい色調に富んだ写真が得られます。カラー撮影はさらに美しい色を再現するためには“光の質”（色温度）も正しく測定しなければなりません。これには露出メーターと共に色温度を測るカラーメーターを併用することが最も理想的です。なおカラー撮影の場合、被写体の各部分の色を測る必要がありますので、このような時セコニック標準反射板をご使用になりますとよい結果がえられます。







## 人物撮影の場合

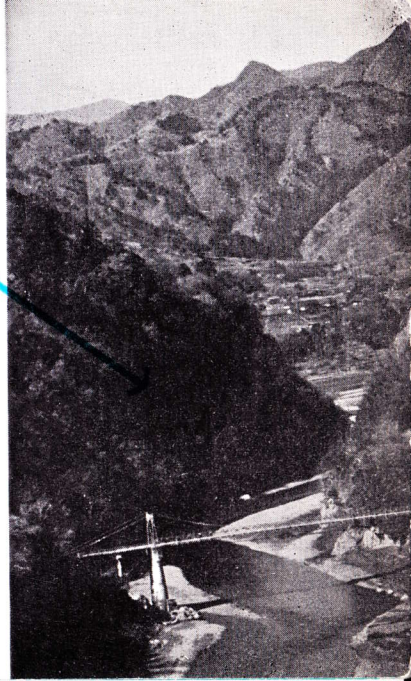
反射光線式メーターは被写体から反射してくる光線を測って露出を決めるメーターです。カメラ位置からメーターの受光部を被写体に向けますと、被写体以外にバックの光、空の光、路面の照り返し等が受光部に入ってきて適正露出はえられません。ですからできるだけ被写体のそばまで近寄り、被写体の反射光線（輝度）のみを正しく測定しなければなりません。この際被写体に10cm位近づいて測ることがよく、特に自分が表現したい部分を測ります。この場合メーターの影が被写体の測定部分に入らないように注意して下さい。もし被写体（左の写真）が黒いジャケットに白いスラックスのような時は、メーターは、ジャケット、スラックス、頭髪、皮膚にはそれぞれ異った指示をします。

これはそれぞれの反射率が違うからで、白い部分を測っただけでは他は適正露出にならず不足になります。このような場合には被写体の各部を測ってその平均値を求めることで、普通被写体の最明部と最暗部を測り中間の値を求めます。また標準反射板を使用するのも一つの方法です。（標準反射板については15頁を参照して下さい）

## 風景の場合

風景のように被写体に近寄れない場合には、カメラの位置から直接被写体、または目的の中心にメーターの受光部を向けますと、ただ漠然と向けたのでは空からの光が受光部に入って来て露出不足となります。そこでメーターの受光部を地平線（陸と空の界や山や空の界等）と自分の足もとの中間に向けて測って下さい。

しかしその風景が広く展開した風景であったり、また遠くの山々を写すような場合は前のようにして得られたメーターの指示どおりではなく、その値を $\frac{1}{2}$ きりつめてください。それは空気光の影響で被写体の暗部が明るくなり、被写体コントラストが低くなるからです。もしF 22で $\frac{1}{200}$ 秒とダイヤルが組合わされたら $\frac{1}{200} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{400}$ 秒でF 22の $\frac{1}{400}$ 秒となります。





## スナップの場合

街頭などで良い被写体が見つかり、ヨシッ!とばかりメーター片手に被写体目がけて飛び出したのでは折角のチャンスも被写体に感ずかれ、みすみす見のがしてしまいます。

こんな場合は撮影位置で風景と同じ測り方をして下さい。(風景の測り方の項参照) ただし切りつめる必要はありません。

スナップでもビルの谷間の様な場所で被写体に空が入らないときには、メーター受光部を被写体の中心に直接向けて特に受光部を下に向ける必要はありません。

スナップのように被写体に近寄れない時には代用測定するのも一つの方法です。その場合被写体によく似た色合をもつ物体にメーター受光部を向けて測りその露出値をカメラにセットしてスナップをなさっても差支えありません。例えば自分の手のひら等はスナップの時には非常に有用な役割を果たしてくれますが、出来れば標準反射板をご使用になればこれにこしたことはありません。しかし代用測定をなさる時には必ず被写体の光線状態と同じ光線状態のもとで測定することに注意して下さい。



## 人物を海岸や雪景色などの乱反射の多い場所で、スナップ撮影するとき

スナップではいくら人物撮影といえども近ずいて測ることは出来ませんから、撮影位置からメーター受光部を被写体に向けて測ります。しかしその際メーターで得られた露出値の紋りを一目盛開けて下さい。これは被写体を取り囲んでいるまわりの乱反射(雪面や水面等の反射)から必要以上に強い光線が入ってくるのを補正するためです。





## 非常に暗い場所での測定方法

マルチフィルターを開けても針の振れない様な暗い場所ではアンプおさえバネを引いてアンプを立てて測定して下さい。

アンプを用いて測定した場合にはダイヤル中心の赤マークに黒三角(A M P)を合わせてから、外側のギザギザのダイヤルを廻して指針の振れた真上にガイドマークを重ねますと自動的に絞りとシャッターの組合せが出来ます。アンプを用いても指針の振れない場合には、被写体位置から直接光源にメーターの受光部を向けて測って下さい。もし光源が二つも三つもあるような場合にはその中の主光源に向けて測り、その指示通りダイヤルを合わせて得られた値を10倍して下さい。

例えばF 5.6 で $\frac{1}{10}$ 秒ならば、 $\frac{1}{10} \times 10 = 1$ 秒になります。つまりF 5.6 で1秒が求める露出となります。



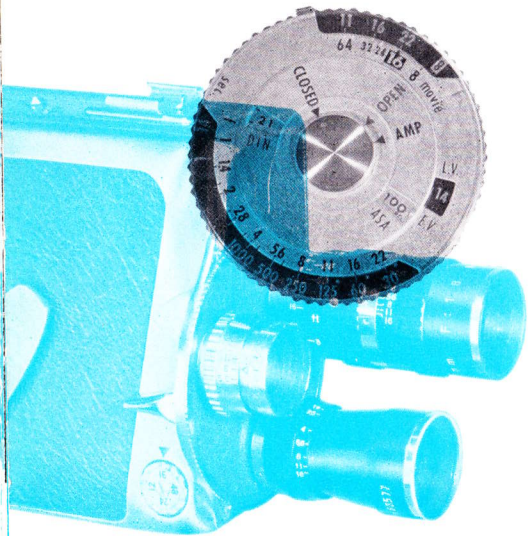
## 逆光の場合の測り方

逆光のもとでの撮影には次の様な写し方があり、その写し方によってはメーターの測り方も異ってきます。

**A 被写体を逆光でシルエットにするとき** メーター受光部をバックの明るい空などに向けて測定し、その指示通りで撮影して下さい。つまり露出はバックの明るい光線に合わされたわけですから、目的の被写体は露出不足となるため真黒なシルエットになります。

**B 逆光下で被写体を描写するとき** メーター受光部を被写体の暗部に近づけて測定するか、または標準反射板を被写体と同じような光線状態にして測定します。この際バックの光(逆光線)がメーターに少しでも入らぬように注意しなければなりません。

**C 逆光下で被写体もバックも共に描写したいとき** メーター受光部を最初に被写体暗部に向けて測り、次にバックの明るさを測ります。バックの測り方は風景の測り方と同じ様にメーター受光部を地平線と自分の足もとの中間に向けて測って、その中間値で撮影して下さい。しかし被写体を測った値とバックを測った値とのコントラストが1:16以上の時には両方の描写は困難です。

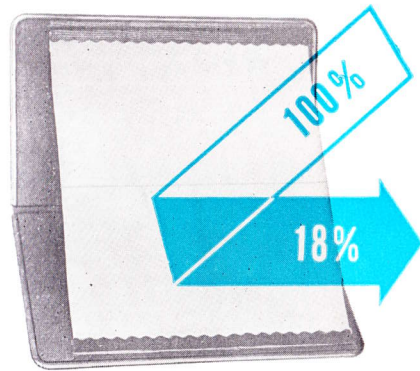


## シネ撮影の場合

シネ撮影の測り方は普通のカメ  
ラの場合と全く同じです。ただしシ  
ネカメラのシャッタースピードは、  
普通カメラと違って1秒間に廻転  
速度が8・16・24・32・64という  
コマ数になっておりますから（写  
真参照のこと）貴方のご使用にな  
る撮影機のコマ数に組合せられて  
いる絞り値で撮影して下さい。

シネ撮影のうち8ミリシネは、特  
殊撮影をのぞいて16コマが標準コ  
マ数とされておりまして16コマ  
の対向数値をシネの絞り値にして  
下さい。

シネ目盛はダイヤル上の赤字で  
記されております。



¥ 230

## セコニック標準反射板について

被写体の反射光線の明暗の平均を簡単に  
得るためには標準反射板を利用すれば便  
利です。標準反射板は標準率18%の標準  
無彩色に塗られているものですから、ど  
んな状態の光線の場合でもその時の光線  
の18%より反射して来ませんから、いつ  
でも標準の値、つまり平均した値が得ら  
れるわけです。明暗各種のコントラスト  
がある場合には簡単に中間の値が得られ  
ます。使い方は標準反射板を被写体の面  
に正しく平行に立て、約10cmの間隔で反  
射光線式メーターで測り、その値をカメ  
ラにセットすればよいわけです。

カラー撮影の場合、カラーフィルムは白  
黒フィルムと根本的にその性質が異り、  
反射率の違う各部分の色をそのまま発色  
させるわけですから、平均した値である  
標準反射板で測定した方がよい結果が得  
られます。



## 接写の場合の露出の求め方



復写の測り方

$$\text{実効絞り値} = \frac{\text{指示絞り値} \times \text{レンズとフィルムの距離}}{\text{レンズ表示焦点距離}}$$

静物・商業写真等をフォーカベルなどを使用して接写する場合は、反射光線式で測定して下さい。ただし露出はメーターの指示どおりではなく右の式のとおり補正しなければなりません。

例えば焦点距離が50mm、レンズとフィルム面が100mm、メーターの指示がF 8の $\frac{1}{50}$ 秒だったとします。この場合上記の式で行けば、実効絞り値は $\frac{8 \times 100}{50} = 16$ となり、F 8に絞っても実際にはF 16だけしか働いていないこととなります。従って露出は4倍にしなければならず、F 8で1秒が適正露出となります。

(上記の計算で実効絞り値16に対するシャッタースピードを選べばよい)

書籍、文献等の複写の場合は、その複写物に接近して測りますが、まずメーターを複写物に10cm程近づけて測ります。その際複写物と受光部が平行になる様にして測って下さい。ただし指示された露出に対し復写する書籍が白い紙の場合には指示通り撮影して下さい。黒い部分が多い被写体は白い紙を置いて測って下さい。

## フィルターを使用して撮影するとき

オートリーダーにはフィルター倍数目盛がついておりませんから、まずメーターによって求めた露出に対して、フィルターメーカーが指示している露出倍数を掛けて撮影して下さい。

例えばY 2'のフィルターで露出倍数2倍の時、メーター指示がf 8 $\sim\frac{1}{200}$ 秒の場合には倍にして $\frac{1}{200}$ 秒 $\times 2 = \frac{1}{100}$ 秒で撮影して下さい。

この露出計はJISB 7120により較正されております。

反射光から露出時間を求める式

$$T = \frac{K A^2}{B S} \times 10.76$$

T = 露出時間 (秒)

A = レンズの f 値

B = 被写体の輝度 (cd/m<sup>2</sup>)

S = フィルムの露出指数

(ASA 又はそれに相当する数字)

K = 1.16 露出計 更正常数  
平均視野角の種別 B

## ゼロ調整

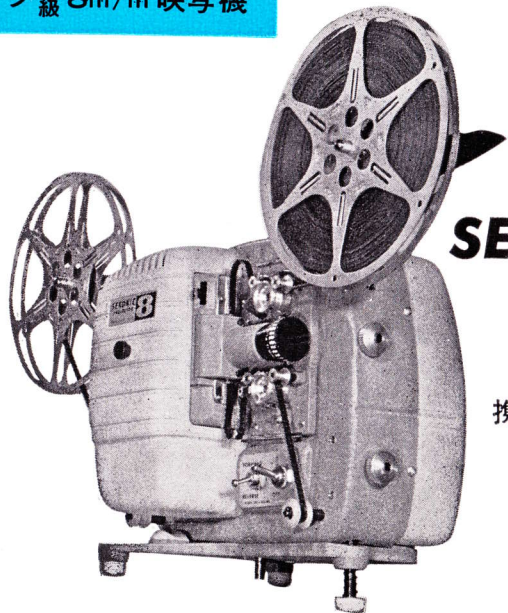
メーターの受光部に光が入らないように完全に覆っても、指針が0の位置から多少ずれることがあります。この場合受光面に光が少しでも入らぬよう完全に覆って、裏側のゼロアジャストネジを小さいドライバーで静かに右、または左に廻し、指針を正しく0の位置までもってゆくように調整して下さい。

## 露出メーター保存上の注意

1. 湿気の多いところへ長い間放置しないようにして下さい。
2. 摂氏60度以上の高温を与えないようにして下さい。
3. 急な衝撃を与えないようにして下さい。
4. 長い間使用せずにしまっておく時は、革ケースより取り出し、桐箱等にシリカゲル（防湿剤）と一緒に保存して下さい。ただし金庫や金属の容器への保存は避けて下さい。

セコニックはアフターサービスに特に重点を置いておりますから、いつまでも安心してご使用になれます。本メーターのパッケージに同封してありますファンカードにそれぞれ記入事項をお書き込みの上、直ちに弊社サービス部宛お送り下さい。ファン名簿（登録台帳）に貴方のご氏名を記載の上早速登録通知書をお送り申し上げ、この日より一カ年の間にメーターが自然に工合が悪くなりましたら無料で修理申し上げます。なおその他の故障も実費で修理致します。





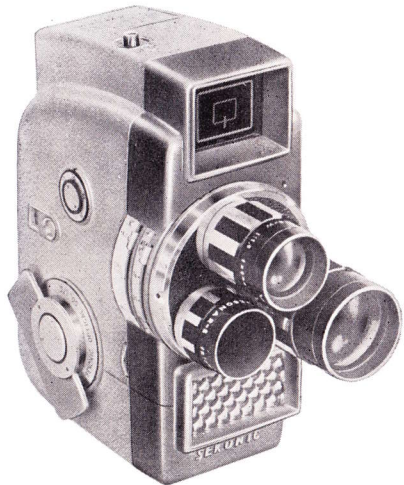
## SEKONIC 8

定価 ¥ 16,500

携帯用ケース ¥ 1,500

### すばらしいピント・大きな画面

- 100V 50~60サイクル
- 映写電球100V500Wランプ直射式光源
- 映写レンズ 映写レンズはF14 18mmのワイドレンズが付いておりますから小さな部屋でも大きな映写面積が得られます。
- 速度調節 フィルムの送り速度は可変抵抗器により100Vで8コマ~22コマの速度調節が可能です。
- 逆転映写 スイッチの切換えによって簡単に逆転映写を行う事が出来ます。
- パイロットランプ 映写機後部にパイロットランプの差し込みコンセントが付いておりますから、映写前後の照明に便利です。
- ヒューズ セコニック8mm映写機にはヒューズが付いておりますから、電気による故障を未然に防ぎ長時間安心して映写出来ます。
- リールは400フィート巻まで可能です。
- 巻戻しリールアームが手さげハンドルと兼用になっております。



定価 ¥19,000 皮ケース ¥1,000

- シャッターボタンは本体上部にありますので安定した持ち方で撮影を楽しむ事が出来ます。シャッターボタン横にリリース孔がありますので、セルフタイマー、リリース等が使用出来ます。
- ファインダー内部にフィルム送り確認装置を取付けその指標(緑色)により、フィルムの走行状態が一目で分ります。
- 本体側面にシャッターロックが付いており、Lの位置ではシャッターが作動しないようになっております。

- 撮影レンズは標準レンズ F 1.9 13mm 広角レンズ F 1.99mm 望遠レンズ F 1.9 32mmのセコニック・リゾナー 3本付で被写体の条件によって迅速に交換出来ます。
- シネカメラ用として完全に連動する優秀な露出メーターを内蔵し、簡単な操作で適正な露出が得られ、いつも最良の状態での撮影が出来ます。
- フィルム感光度はASA 10, 16, 32, 40の4種でカラーフィルム、白黒フィルムいずれにも露出連動します。
- コマ数は、1, 12, 16, 24, 32コマの5段階で露出完全連動機として最高の性能を有しております。
- スカイライト、ND, コンバージョン3枚のフィルターを内蔵し、フィルター切換レバーによって簡単に操作出来ます。
- スカイライトフィルター 晴天の遠景撮影とか被写体が青空光によって照らされている場合に使用しますと、紫外線を吸収することになり、フィルム上に正しく再現されます。またスカイ

- ライトフィルターはレンズ保護の役目にも使用して差しつかえありません。
- NDフィルター(ニュートラル・デンシティーフィルター) NDフィルターは露出がどうしても過度になるとか、大絞りのまま撮影して焦点深度を利用したいときに用います。エルマティックのNDフィルターは4倍になっております。
- コンバージョンフィルター コンバージョンフィルターは色温度変換フィルターでエルマティックには人工光用カラーフィルムを昼光撮影する場合に使用するフィルターを内蔵しております。
- 巻き上げハンドルはラチェット式で迅速に巻き上げることが出来ます。
- スプリングモーターは1回の巻き上げで約9フィート連続撮影が可能ですから、約3回の巻き上げで25フィートを撮影完了します。
- ファインダーは見易くなっており、パララックスの点は充分に考慮してあります。